

ICT農業土木技術報告会 2022 に参加して

令和4年8月5日(金)『ICT農業土木技術報告会 2022』に参加し、標津町川北ふれあいセンターでの座学後、酪援・緑さんの草地をお借りして自動運転ロボットトラクターなどを見学しました。

今後、農業土木の分野でも欠かせない各種のICT技術を活用しながら現場作業を行う(株)上田組が、情報共有の場として昨年から開催しており、管内JAや中標津高校の生徒など、42名が参加しました。



地域酪農の発展に繋がるICT技術研修

レボサク

地元、標津町の企業が開発した車両とほ場の状況が管理できるソフト。手軽な機器でリアルタイムに複数の関係者間で、農作業機械などの状況が確認でき、車両の軌跡も把握できるシステム。管内でも多くのTMRセンターで導入され、作業の効率化に不可欠。



レボサクで作業状況把握

ドローンによる遠隔臨場

現場の状況をリアルタイムで把握できる他、作業状況の確認や出来型管理の検査等も遠隔で実施が可能。



ドローン確認状況

マシンガイダンス

トラクターにマシンガイダンスを搭載することで、草地整備時の反転耕起や土改材散布など、若手のオペレーターでも、無駄のないスピーディーな施工が可能。

自動運転ロボットトラクター

農家戸数の減少や高齢化など地域課題の解消を図る一助として開発されたロボトラ。デモンストレーションを見学し、走行状況や安全装置の作動などを確認。



自動運転ロボットトラクターに試乗

建設業では熟練オペレーターの高齢化や、技術力の継承、令和6年度からの時間外規制の罰則化など、取り巻く状況が深刻です。特に草地整備事業は1番草収穫後の夏期に施工が集中するなど、施工時期の平準化が課題となっています。ICT技術による省力化や作業時間の短縮、施工精度や安全性の向上など、発注者も多くのことを勉強し、数々の課題をクリアしながら、技術の普及・促進に努めていきたいと考えています。